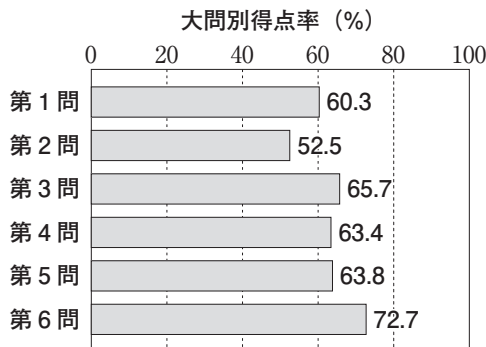
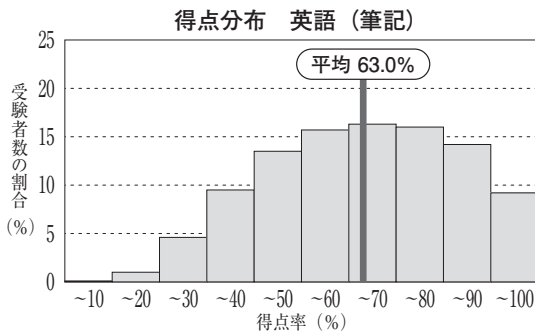


英語 (筆記)

1 問でも多くの正答を得るために最後まで集中しよう。

I. 全体講評

今回は受験学年の平均点が126.0点で、この1年を通じて最高の成績となった。例年通りのことであり、まずは順当な結果と見ていだろう。年度の初め頃と比べて高2生との得点差が著しく広がっており、いかに受験学年の諸君が真剣に努力したかを物語っているだろう。このまま最後まで気を抜かず、精進し、センター試験本番には自信を持って臨んでほしい。今回の結果を分析してみると、全体的に基礎から標準レベルと目される設問では取りこぼしが少なく、かなり安定した力を示してくれた。特に第6問の長文問題の得点率が最も高く、70%を超えたのは高く評価できる。過去のセンター試験本番レベル模試を続けて受けている人たちは、すでに自分の課題をはっきり認識していると思われるが、残されたわずかな期間にも弱点補強に努め、効率的なセンター試験対策に取り組んでほしい。



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

発音問題の頻出語を再チェックしよう！

今回の第1問の得点率は60.3%で、平均的な成績であった。内訳を見ると、Aの発音問題の平均正答率が42.0%とやや低かったのに対し、Bのアクセント問題が74.1%とよくできていた。小問別の正答率を見ても、Aでは30%台後半から40%台後半の範囲にとどまっていたが、Bでは60%台後半から80%台前半までと高いレベルで安定していた。唯一30%台に終わったAの問3はbが黙字となる頻出ポイントを問うたものだが、正答である(黙字とまらない)①ambitionとほぼ同数の人が④thumbを選んでいたので、不安を感じる人は集中的に確認しておきたい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

熟語の知識が明暗を分けた！

第2問の得点率は52.5%で、今回の大問の中では最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が56.7%、Bの整序問題が47.0%、Cの応答文完成問題が51.1%と、全体的に特に大きな差はなかった。しかし、小問ごとの正答率を見ると、Aには30%台が3問40%台が2問ある一方、70%~80%台に達したのも4問と、かなりの差が見られた。30%台に終わった小問はいずれも熟語の知識が問われた箇所である。同じようにBでも正答率が40%に満たない小問が1つあったが、やはり動詞を用いた定型表現がポイントになっていた。Cについて言えば、構文や文法の知識の方がものを言うが、いずれにしても第2問では即戦力としての熟語の知識を軽視できないことは明らかである。この分野に不安がある人は、センター試験の過去問だけでも見直しておくことをすすめる。

第3問 文脈把握 (対話文空所補充・文削除・要約)**文の流れをつかむことに集中しよう！**

今回の第3問の得点率は65.7%で、かなりの出来であった。内訳を見ると、Aの会話問題の平均正答率が78.9%で、不要文削除のBが59.8%、意見の要旨を選ぶCは64.7%だった。特に不出来というわけではないが、BとCにそれぞれ1問ずつ正答率が40%台にとどまった小問があった。Bは短い文章ながら、かなり本格的な読解力が試され、精読が求められる箇所であるが、戦略的に言って、ここであまり多くの時間を費やすことは避けたい。細かな表現にこだわるよりも、文の流れを的確につかむことに集中しよう。Cも文字数が多いが、要旨を把握するのが目的なので、それぞれの発言を一気に読み通すくらいであってほしい。こうすることで、時間を節約することができれば、後半のより本格的な文章問題にも対処しやすくなるだろう。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り**パラグラフ内の与えられたヒントを生かそう。**

第4問の得点率は63.4%で、全体平均に近い成績だった。A、Bの内訳も、ほぼ同じ数値を示していたので、バランス的にもよかった。ただし、小問別正答率を見ると、Aでは80%台後半が1問あったほかはすべて50%台だった。それに対し、Bの方は3問とも平均値に近い数字でままとまっていた。今回のAについては、この問題の特徴をなすグラフに関する設問はよくできていたが、最終パラグラフに続く内容を推測させる最後の問題がもう一步であった。この設問にはパラグラフ内に何らかのヒントが与えられている。今回の場合は、「コーヒー・パラドックス」と言われる現象の「消費国」と「生産国」の事情のうち、前者の説明のみで終わっていたので、そこを手がかりにすべきであった。センター試験本番でも、こうした意識をもって解答にあたってほしい。

第5問 物語文の読解**長い物語文を無難にこなしていた。**

今回の第5問の得点率は63.8%で、第4問と同様に平均値に近い成績だった。小問別の正答率も、50%台から80%台に及び、特に大きな問題点は見当たらない。この大問では、センター試験のすべての大問の中で最も語数の多い本文に対処しなければ

ならない。しかし、長文とは言え、特に風変わりな内容でなければ、ストーリーの大筋を把握するのにさほどの苦労はないだろう。これまでも指摘したように、一般にはこのあたりから無回答率が高くなってくるが、今回はかなり低減した。センター試験本番でも、終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答するかを念頭に置いてほしい。

第6問 説明的文章の読解**この調子を継続して、さらに上を目指そう！**

第6問の得点率は72.7%で、今回の大問の中では最高の成績だった。この時期に来て、最後の長文問題でこれだけの成績を残したことは非常に高く評価できる。小問別の正答率を見ても、50%台後半から80%台に及び、パラグラフ毎に見出しを選ぶ最後のBでも平均以上の高率を示した。第2問で手こずったと推測できる割には非常に安定していたと言える。これまで大きな課題であった無回答率もとうとう1%台まで下げることができた。今回の好成绩も全体的な時間配分が適切に行えるようになった結果であろう。時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。センター試験本番にも、ぜひこの調子で臨んでほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

最後の学習アドバイスとして、第6問に一言触れておこう。本番直前の時期であるから、長期的な学習対策ではなく、実戦的な心得を述べておきたい。この読解問題の素材は数年前に物語文から説明文に変わった。説明文は客観的情報をもとに筋道がはっきりしている点では読みやすい。何よりもパラグラフ単位の内容理解と解答を心がけてほしい。時間は限られているのだから、パラグラフ毎に設問と照らし合わせ、A、Bのどちらでも解答可能な設問はそこで処理した方がよい。多少あやふやであっても後回しにせず、取りあえずの結論を出しておくべきである。また、説明文に特有な難しい単語や硬い表現もあるだろうが、もし意味を知らない語句に出くわしても、およその意味を推測できればそれで十分である。大切なのは文脈全体なので、必要以上に細部にこだわることはない。時間さえ確保できれば、それほどの難問ではないことを忘れないでほしい。受験生諸君の健闘を祈る。